

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 10 月 11 日現在

機関番号：34532

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2014

課題番号：25570013

研究課題名(和文)南アジアの紅玉髓製工芸品の流通と価値観 - 「伝統」を支える社会システムの考察

研究課題名(英文)Trade and Values of Carnelian Ornaments in South Asia - Study on Social System supporting Tradition

研究代表者

小磯 学 (KOISO, MANABU)

神戸夙川学院大学・観光学部・教授

研究者番号：40454780

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本調査研究の目的は、インドの東端のナガランド州の紅玉髓製ビーズ・装身具の流通と価値観を、その歴史的背景と今日の現状を調査することで明らかにすることにある。

ナガランド地方は東南アジアや中国南部とも接し、古来交易の要所であったと考えられ、限定的ながら数百年ほど前からすでに紅玉髓製ビーズが流通していたことが裏づけられている。しかし近現代では、急速に進んだキリスト教化や中央政府との紛争によって紅玉髓製ビーズをめぐる文化が衰退してしまった。ただしそれでもなお、装身具は先祖から受け継がれてきた家宝として意識され、ナガとしてのアイデンティティの拠り所としてその伝統が保持されていることが確認できた。

研究成果の概要(英文)：This project on carnelian ornaments in South Asia originate from a study on carnelian beads of the Indus Civilization, which led us to carnelian mines at Ratanpur (Dt. Bharuch, Gujarat), the major manufacturing centre of Khambhat (Dt. Anand, Gujarat) and then to one of the major destination of carnelian trade, Nagaland located 2500km away.

The aim of the project is to investigate (or to describe) current state of trade activity of carnelian - i.e. mining, manufacturing into ornaments, selling, purchase and use as well as values or symbolism bestowed on this semi-precious stone. However, the tradition is slowly dying out and hopefully the recording of contemporary status would also be the contribution of the project.

研究分野：南アジア地域研究

キーワード：紅玉髓製ビーズ 工芸品 装身具 ナガランド 南アジア 交易 社会システム 信仰

1. 研究開始当初の背景

南アジアは、多種多様な宝石（貴石・準貴石）を産出する土地として知られる。人の手では生み出せない各々の石の美しさに、人々は古来より魅了され、特別な想いを抱いてきた。特定の場所でしか採掘できない石は熟練した技をもつ職人が集まる町へと運ばれ、ビーズなどに加工される。こうして採掘から加工、そして加工から製品となった首飾りを身に着ける人々までを結ぶ交易ネットワークが形成されてきた。橙から紅色の半透明なガラスのような輝きが美しい準貴石の紅玉髓も、そうした石のひとつである。

インドに視点をあてるなら、今日では全国的に人気が高いのはダイヤモンドやルビーなどの貴石類や金といえる。しかし紅玉髓と人との関係はそれらより古く遡るより長い歴史をもち、今も連綿と受け継がれている。今もこの石が好まれている場所のひとつが、ナガランド州を初めとするインド北東部である。

本調査研究の発端は、4500年程前にパキスタンからインド北西部にかけて栄えたインダス文明にある。この文明で作られた見事な紅玉髓製ビーズは、特産品として遥か2000km西方のメソポタミア文明にまで輸出されていた。原石は、文明の南東部にあたる現在のグジャラート州ラタンプル地区で採掘していたと考えられている。それは職人らが待つ都市に運ばれ、おそらくは何カ月もかけて丁寧に成形され、磨かれ、穿孔され、首飾りに仕上げられていった。

ラタンプルでは今日なお採掘が続けられており、同州のカンバートに運ばれ古代と変わらぬ手作業によってビーズに加工されている。その製作技法の調査のためこの街を訪れ聞き取りをしていくなかで、完成品の卸し先のおよそ8割が東方に2200km離れたナガランド州であることを知った。数千年に及ぶ交易の変遷や、交易を促した文化的背景

（政治、社会、信仰など）を裏づける史料は断片的であり、ましてやかつて人々が紅玉髓に対して抱いてきた想いを探ることは不可能に近い。ただし、少なくとも採掘と原石を製品へと加工する製作技法が、今日まで継承されてきたことは仮定できる。ナガランドで好まれ使われている紅玉髓製ビーズは、そうした長い歴史と文化のひとつの帰結にほかならない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、今日まで連綿と連なる南アジアにおける紅玉髓と人々との関係の歴史に、今日のナガランド州の事例の調査研究の成果を加えることである。

インドの「辺境の地」としても知られるナガランドであるが、実際には首飾りに用いられる紅玉髓や瑪瑙、ガラス、貝などさまざまな素材が、州の外の遠方から交易によって運ばれ広域に及ぶ交易ネットワークを有している。そうした交易は、具体的にどのような形で行われているのか。そしてまた交易によって入手した首飾りは、人々にとってどのような文化的な意味をもつのか。伝統は急速に失われつつある。それが消え去る前に、これらの点を明らかにし記録を残すこともまた目的の一部を成している。

3. 研究の方法

本研究のメンバー各々が専門とする民族誌、文化誌、考古学、地理学などそれぞれの分野の視点からナガランド州の紅玉髓製ビーズの文化の流通と価値観を明らかにすることに取り組み、こうした装身具を巡る伝統とその社会システムの中における変容について調査を行った。限られた時間の中ですべての課題を検証することは困難ではあったが、この地だけでなく、インドさらには南アジア全体の歴史の一端をも担う装身具とその素材について多角的に分析することに尽

力した。

現地での調査は、平成 15 - 16 年度に 4 回に渡って実施した。主だった調査地は以下の通りである。

ナガランド州

ディーマープル県：ディーマープル

コヒマ県：コヒマ、コノマ、ジャカマ

ベック県：テニズミ、チョズバ、ルングズミ、ケザケノ、メルリ

キフィレ県：ミミ

マニプル州

セナパティ県：カフレマイ、マケル

ニューデリー及びコルカタ（ナガランド州政府直営店）

4 . 研究成果

ナガランド地方の紅玉髓製ビーズを用いた首飾りについては、その伝統的な使用すなわち豪華な何連もの首飾りを日常的に身につけることは、残念ながらもすでに失われていた。それは世界の多くの土地と同様に、服の洋装化が進んだことと軌を一にする。そしてとくにナガランドの場合には、急速に進んだキリスト教への改宗が生活に変化をもたらす大きな要因ともなった。これに加え、中央政府との独立紛争や安価なプラスチック製品の登場もさらなる変容の端緒となった。

一方でキリスト教徒となった今もなお、古来行われる年に数度の祭りを盛大に祝い、その際に各々のナガ集団の一員の証である豪華な首飾りを身につけている。今もホンモノが理想とされるものの、たとえそれがプラスチック製の代替品であったとしても、その色と形、デザインが伝統に基づいていることが重視される。2000 年に始まったホーンビル・フェスティバルもしかり。かつては互いに首飾りをしていた各々のナガ集団が一同に会することなど、歴史上かつてなかったはずである。地域振興・観光促進という時代に即し

た新しい流れの中で、改めてそれぞれの集団のアイデンティティが強化されている。それは、未来に向けた新たな伝統の創出ともいえるであろう。

また本調査を通して、こうした文化と歴史の変遷が、人々が暮らし生業を営んできたナガランド固有の地理的環境を舞台に積み重ねられてきたことも検証できた。さらには、この土地におけるイスラーム教徒の現状について確認できたことも大きな収穫であった。紅玉髓が採掘されるグジャラート州ラタンプル地区には紅玉髓の加工技術を伝えたとされるイスラーム教信者が祀られていることもあり、この石とイスラーム教との関わりについては今後も検証していく必要がある。

5 . 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

【科研報告書】

小磯学（監修）・遠藤仁（編集）

『南アジアの紅玉髓製工芸品の流通と価値観 - 伝統を支える社会システムの考察』、平成 25-26 年度文部科学省科学研究費 挑戦的萌芽研究成果報告書、2015.3

下記は掲載した報告・論文：

小磯学 「紅玉髓製ビーズを追い求めて」 pp.1-2.

小磯学 「ナガランドにおける紅玉髓製ビーズの文化的・歴史的背景と現状」 pp.3-20.

遠藤仁 「ナガランドにおける赤色装身具の記録保存」 pp.21-33.

小茄子川歩 「キリスト教の普及とナガ伝統社会の解体」 pp.34-45.

渡邊三津子 「ナガランド南部の集立地と周辺の土地利用の地域的差異について」 pp.46-54..

遠藤仁 「ナガランドのもう 1 つの象徴 - 鉈刀に関する覚書」 pp.55-58.

小磯千尋 「南アジアの装飾品」 pp.59-71.
村山和之 「南アジアのイスラーム教徒に
おける紅い石(アキーク)について」 pp.72-85.
Tiatoshi Jamir and Ditamulu Vasa
Summary Report on the Archaeological
Context of Carnelian Beads from
Northeast India for the Collaborative
Project. Pp.86-87.
小磯学 「調査を振り返って」 pp.88-89.

【学会発表】(計3件)

小磯学 「ナガランドの伝統の背景」『近現代インドにおける食文化とアイデンティティに関する複合的研究』(科研基盤 B、代表：井坂理穂) 研究発表会、(於) 神戸夙川学院大学 . 2015.3.4

小磯学, Tiatoshi Jamir, Ditamulü Vasa, 村山和之, 遠藤仁, 渡邊三津子, 小茄子川歩, 小磯千尋. "Trade and Values of Carnelian Ornaments in South Asia – Study on Social System supporting 'Tradition,' Part 1: Nagaland."

学会名(4組織合同): International Seminar on Archaeology and Language, and the Joint Annual Conference of Indian Archaeological Society, Indian Society for Prehistoric and Quaternary Studies and Indian History and Culture Society, held at Deccan College Post-Graduate and Research Institute, Pune, India. 2014.10.6-9

遠藤仁 「エジプト先-初期王朝時代におけるビーズ製作」, 日本西アジア考古学会 第18回総会・大会 . 2013.6.2

【図書】(計1件)

遠藤仁 「工芸品からみたインダス文明期の流通」長田俊樹編『インダス 南アジア基層社会を探る』第6章、京都大学学術出版会、179-204頁 . 2013

【雑誌掲載短報】(計2件)

小磯学 「遠いナガランド」『インド通信』419、1-2頁 . 2013.9.1

遠藤仁 「エジプト先-初期王朝時代におけるビーズ製作」, 『日本西アジア考古学会 第18回総会・大会要旨集』日本西アジア考古学会、45-48頁 . 2013

【産業財産権】

- 出願状況(計0件)
- 取得状況(計0件)

【その他】

公開講座:

小磯学 「グローバル観光と宗教 - ヒンドゥー教とイスラーム教の視点から」『神戸夙川学院大学観光文化学部 公開講座』(於) 神戸夙川学院大学 . 2014.7.4, 12

ホームページ掲載:

小磯学 神戸夙川学院大学ホームページ(現在閉鎖)掲載: 「インド紀行」「アクセサリを追い求めて」「首狩 vs キリスト」「生活は牛糞とともに」2014

ナガランド文化紹介イベント:

村山和之 「NAGALAND DAY: 北東インドナガランド州の旅景色」東京都町田市柿生「カフェ&バー風知草」にて開催 . 2014.1.29

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小磯学(こいそ まなぶ)

神戸山手大学・現代社会学部 観光文化学科・教授

研究者番号: 40454780

(2) 連携研究者

村山 和之(むらやま かずゆき)

和光大学・表現学部・講師

研究者番号: 80453968

(3)連携研究者

遠藤 仁(えんどう ひとし)
総合地球環境学研究所・研究員
研究者番号：80551548

(4)連携研究者

渡邊 三津子(わたなべ みつこ)
奈良女子大学・共生科学研究センター・協
力研究員
研究者番号：10423245

(5)連携研究者

小磯 千尋(こいそ ちひろ)
大阪大学・言語文化研究科・准教授
研究者番号：00624206